

第1回天草市立小中学校適正規模適正配置審議会（議事概要）

1 期 日 令和8年6月4日（木）午後2時～午後4時

2 場 所 天草市役所2階 庁議室

3 出席した委員（22名）

石村委員、中川委員、有馬委員、田中委員、松下委員、井手尾委員、森委員、友村委員、
稲津委員、村北委員、倉田委員、渡邊委員、稲田委員、迫田委員、井下委員、原田委員、
嶋田委員、西田委員、野中委員、森田委員、山下委員、黒川委員

※欠席者：平山委員（1名）

4 出席した事務局職員

教 育 長	平田 浩一	教 育 部 長	新木 健一	教育総務課長	福田 稔
学校教育課長	蓮池 貴司	生涯学習課長	奥山 紀子	学校給食課長	宮崎 奈美
学校教育課審議員	松本 祥司	学校教育課課長補佐	岩下 健太郎	学校教育課係長	中原 静也
生涯学習課課長補佐	坂本 真理子	学校給食課課長補佐	袋田 一貴	教育総務課課長補佐	伊野上 乾悟
教育総務課課長補佐	松下 美紀	教育総務課課長補佐	正村 謙一	教育総務課課長補佐	松下 晃市
教育総務課参事	松本 智明				

（オブザーバー）

地域創造課長	濱崎 彰吾	地域創造課審議員	吉村 一弘	地域創造課係長	田中 裕樹
--------	-------	----------	-------	---------	-------

5 議事概要

（1）委嘱状交付

・代表して名簿1番の石村委員に平田教育長から委嘱状を手渡された。

（2）教育長挨拶

（3）会長副会長選出

・委員より「事務局から腹案」との声があった。事務局から会長に石村委員、副会長に黒川委員を提案し、賛成多数で承認された。

（4）諮問

・平田教育長から石村会長へ諮問を手渡された。

（5）議題

①小中学校の適正規模・適正配置について

②今後のスケジュールについて

③その他

6 会議記録（協議の概要）

（1）小中学校の適正規模・適正配置について

・教育総務課から資料1により説明した。

～～質疑・意見等～～

ア 複式学級について

<委員>

・御所浦小学校には市費負担教職員がいらないとのことだが、複式学級なのでしょうか。

<教育総務課>

・本年の4月より3年生と4年生が複式学級となっている。

<委員>

- ・御所浦小学校に市費負担教職員を配置できていないのは、教員不足も関係していると思う。そういう部分も考えていかなければならない。

<委員>

- ・複式学級は何人からか。

<教育総務課>

- ・小学校の場合、連続する2学年で16人以下という基準がある。ただし、小学1年生を含む場合は8人以下となる。中学生の場合、連続する2学年で4人以下となっている。
- ・先般のあり方検討会の提言でも、その点についてご意見をいただいた。令和3年度から複式解消のために市費負担教職員を配置しているが、全国的な教員等の不足を踏まえると、「小学校においては、人数が少なくても複式学級を含めた小規模校として存続することも選択肢の一つである」という提言をいただいております、今後の考え方の一つとして、複式学級も含めてご理解をいただきたい。

<石村会長>

- ・教員の配置等については複雑な事情がある。教員不足に関しては、今度、教員採用試験が行われるが、近年の受験者数は、定員を満たすか満たさないか程度である。中学校では、教科によって定員割れが見られ、教員確保の見通しが立ちにくい状況である。
- ・私は、県立大学で教員養成をしており、中学校・高校の教員免許を出している。教職課程を履修する学生は増えているが、免許を取得しても採用試験を受けない学生が多いと感じる。どの業種も人手不足で、さまざまな分野に人材が流れている。

<委員>

- ・教員として約35年間働き、分校や複式学級も経験した。複式学級は、教員にとって負担は大きいですが、一人一人をよく見ることができるといった良さもある。慣れるまでは大変だが、時間配分や渡り授業に慣れてくると楽しくなる。
- ・天草地域では、離島だけでなく山間部もあって、統廃合が難しい場合もある。統合しない場合もD×やICT、オンライン授業の活用によって、対応できる可能性があるのではないかと思います。

イ 人口・児童生徒数の推計について

<委員>

- ・出生数で予測されたとのことだが、移住者は考慮されていないのか。私の地区の小学校・中学校には、よそから来ておられる方も多くいる。

<教育総務課>

- ・人口の異動については、県内外のみならず市内における転入出も考えられる。予測することが困難であるため、出生以外は加味していない。

ウ 各地域の状況等について

<石村会長>

- ・各地区お一人ずつ、地区の現状やお考えなどを発言いただきたい。

～本渡地区の委員から～

- ・前回の統廃合のときより多様な考え方が示されている。資料に気になる点があり22ページの「学校がなくなることによって地域活力の低下につながるおそれ」とあるが、見方によっては「地域活力の低下に

つながるから小規模校を残す」とも読めてしまう。「地域活力の低下は市の方針とは相いれない」という書き方にした方がよいのでは。

- ・子どもたちを地域に縛るような表現ではなく、地域で子どもたちを育むために地域と学校が一体になる必要があるといった表現が望ましいと考える。

<石村会長>

- ・学校を残すことで地域の関わりを維持できるというメリットもあるが、一方で、どんなに少人数となっても学校を残さないといけないのかといった考えもある。
- ・あまり丁寧に考え方を打ち出すことで、PTAの意見より、地域を維持することが優先になってしまうのではないかとといった発言であると思う。
- ・その辺りは、両方のバランスを考えていかなければならない。

～牛深地区の委員から～

- ・牛深地区は、見ても分かるようにほかの学校と離れている。令和18年度までは、それなりに人数もいるため、統廃合といってもイメージがわからない。
- ・5年後、10年後を見据えた形で検討いただきたい。

～有明地区の委員から～

- ・学校がなくなると学校と地域のつながりが薄くなることはあるかもしれない。ただ、地域の取組みとして、子どもたちとのつながりを強くすれば、大丈夫ではないかと思う。
- ・有明地区は、小学校も中学校もある程度人数がいる。複式学級はないので、地域と学校とのつながりを更に強くしながら、地域の活性化にも取り組めないかと考えている。
- ・子どもの数が減ったとしても、一番に考えなければならないのは、学力をいかにして向上させるかであり、小規模校でも学力が高いところは多いので、その辺りを考慮しながら、地域の活性化につなげていきたい。

～御所浦地区の委員から～

- ・御所浦小学校・中学校の児童生徒は、地域の行事などにもよく参加しており、地域とのつながりがとても強いと感じる。数年後を見てみると、人数も目に見えて少なくなる。どこかで決断しなければならないと思うところはある。
- ・現在は通学船もあるが、他の学校と統合してしまったら、御所浦には住まなくなるのではないか。それ以外にもいろんなデメリットがあると思う。

～倉岳町の委員から～

- ・倉岳町には、小学校から中学校、高等学校まである。まちづくり協議会では、ふるさとまつりやえびすマラソンなど地域と学校が一緒になって取り組んでいる。地域と学校のつながりがとても深い。
- ・倉岳町の場合、上天草市と接しており、中学校の部活動で、龍ヶ岳中学校と御所浦中学校と合同で出場したりする。そういうところから、行政区を超えた統廃合も考えられるのではないかとと思う。

～栖本町の委員から～

- ・栖本町の場合、意外と若い移住者の方がおられる。栖本中学校では、剣道がしたいと他の町から来た者もいる。学校選択制でそういうのを特色ある学校として打ち出すのもいいかもしれない。
- ・団体種目をしたいという子どももいるので、部活動を考えたら、中学校だけでも近辺で統合したらいいのではないかと思う。
- ・地域の人からは、絶対に学校は残してくれという意見があり、保護者からは、統合した方がいいという意見があると思う。これから地域と保護者とでその辺りの検討を進めていきたい。

<石村会長>

- ・学校規模の適正化にはいろんな方策があって、地域ではどのような方策が適当か考えることが必要。
- ・その中に学校選択制（小規模特認校）も含まれるが、どこの校区からどれくらいの人が集まるのかも考えておく必要があると思う。

～新和町の委員から～

- ・現在の新和小学校と新和中学校は保育園から同じメンバーで中学卒業まで過ごしている。
- ・高校に進学して、大勢の人に尻込みするといった話も聞く。メリット・デメリットどちらもあるが、保護者やまちづくりの方々とも話し合って、いい方向に進めていきたい。

～五和町の委員から～

- ・五和町は、十数年前に小学校も中学校も統廃合を経験したが、学校がなくなった地域の方からは、子どもの声が聞こえなくなった、登下校の姿も見られなくなった、地域自体が寂しくなり学校があった頃の方がよかったとの話を聞く。
- ・個人的な考えとしては、小規模校になっても残してほしい。そうすることで、地域の意欲・活性化につながることはあるかもしれない。

～天草町の委員から～

- ・天草小学校・天草中学校は、ほかの学校と離れている。例えば、河浦の小中学校と統合するとした場合、福連木からはスクールバスで1時間以上かかる。子どもたちの負担を考えれば、本渡の亀場の方に通うことも考えられるかもしれない。
- ・それぞれの地域で生活圏が違う。下田は芥北町、福連木は本渡、大江は河浦や牛深などが生活圏になる。保護者の意見も必要だが、天草町を三つに分ける方法や、過小規模校であってもそのまま残す方法、小学校と中学校を一つにする方法も考えられる。
- ・また、小規模特認校制により本渡地区の大規模校から呼び込むことができないかといったことを含め、検討が必要と考える。

<石村会長>

- ・校区については、これまで人口が減ることは想定されておらず、我々の世代が初めて直面する課題。
- ・かなり具体的な意見であり、校区と生活圏をどう考えるかが今後の方向性に直結する。これから具体的な検討を進めていきたい。

～河浦町の委員から～

- ・河浦でも前回の統廃合で小学校は統合し、小学校と中学校がそれぞれ1校ずつになっている。
- ・地域と学校のつながりに関して、これはやはり我々が学校の運動会やいろんな行事に進んで関わっていくことで、将来に向けても学校を残す方向に進めたいと考える。

～中学校代表の委員から～

- ・小学校の複式学級の増加が想定されるが、中学校として支援できることもあるかと思う。
- ・例えば、中学校の教員が、複式学級のある小学校に授業支援に行く仕組みをつくることで、課題の一部を解決することができるのではないかと。
- ・また学校選択制については、大規模校の大人数の中で集団になじみにくい児童生徒が、小規模校の環境で学べる仕組みを整えることで、不登校の課題解決にもつながるのではないかと感じた。

～小学校代表の委員から～

- ・天草小学校は全校児童が35人で、複式解消のための市費負担教職員も2名配置いただいている。
- ・地域の力がとても強く、歌や書道、美術など、地域の方にゲストティーチャーとして入っていただい

ている。

- ・小規模校ではあるが、今後も地域の協力を得ながら、子どもたちの力を最大限伸ばす教育を進めたい。
- ・本日は、皆様の意見も聞いて、何が一番いい方法なのかを考えていきたい。

(2) 今後のスケジュールについて・その他

- ・教育総務課から資料2について説明した。

～～質疑・意見等～～

ア スケジュールの前倒しについて

<委員>

- ・3月のまちづくり協議会で、教育総務課からこの話をしてもらい、中学校は稜南中学校と統合するといった意見、小学校は複式学級になっても残してほしいといった意見があった。
- ・スケジュールとしては、答申まで2年、それから2年くらいかかるだろうとの説明であった。
- ・これは、まちづくり協議会二十数名の意見であるが、新和地区の場合は早めに進めてほしいといったことを要望すれば、前倒しして進められるのか。

<教育総務課>

- ・3月の説明会では前課長から「地域の総意として確認できれば、審議会と並行して進めることも可能」と説明した。それぞれの地域の状況を踏まえた対応を考えるが、スケジュールや答申に関わる場合は調整が必要となることも考えられる。
- ・どの程度早められるかはわからないが、基本的に、並行して進めることは可能と考える。

<石村会長>

- ・地域の方向性が決まって、審議会と並行して具体的な取組の準備等を進めるケースはあるかと思う。
- ・審議会の答申が全体の結論であることを考えると、先に進めるにあたっては、手順を踏んでいく必要があるかと思う。

イ アンケートについて

<委員>

- ・このような審議会は、大人の視点が中心になるが、子どもの視点でどう考えるかをぜひ聞きたい。
- ・小学生の高学年、中学生になるとある程度、自分の意思や考えを持っている。どういう形か分からないが、当事者である子どもたちからアンケートを取ったり、意見を聞いたりしてほしい。

<教育総務課>

- ・今のところ考えてはいないが、子どもの意見については検討させていただきたい。

<委員>

- ・アンケートは無記名式がいい。いろんな意見があるかと思うが、漏洩したら大変である。
- ・男子・女子や年齢も不要と考える。そういう項目もなしの無記名式が一番いいのではないかと思う。

<教育総務課>

- ・アンケートについては、単に統合する・しないだけでなく、いろんな選択肢を示し、どういう方向に進むべきかをお尋ねしたいと考えている。ご意見のあった事柄は検討させていただきたい。

<委員>

- ・教職員へのアンケートは考えておられないか。教職員は子どもたちをみてくださっていて、学校の運営にもまちづくりの方とも密接に関わられている。

<教育総務課>

- ・教職員の意見も参考にさせていただきたいと考えているが、アンケートを取るかまでは、検討させていただきたい。

<委員>

- ・本来アンケートは、審議会で内容を確認し、承認を得てから実施するのが望ましい。全体での確認が難しい場合は、会長・副会長に内容を見ていただき、了承を得て実施いただきたい。

<教育総務課>

- ・当然、会長、副会長及び委員の皆様にもお示しできればと思う。ただ、スケジュールもあるので、その辺も検討させていただきたい。

<石村会長>

- ・それぞれの地区の状況が異なるため、説明会や意見聴取の方法にも違いがあるかと思う。基本的には、お示しした形をもとに、ご意見を踏まえながら進めていただきたい。

ウ 答申について

<委員>

- ・諮問書に「適正規模・適正配置に関する具体的な方策について」検討するとあるが、どのくらい具体的なものを想定しているのか。

<石村会長>

- ・審議会の答申をどう設定するか、現段階で決めるのは難しい。例えば、それぞれの地区の方向性によって、統廃合するとか、存続するとか、義務教育学校をつくるとか、その辺りまでを示すのか。
- ・統廃合などの具体的な話が進むと、次は施設・設備の問題もあったりする。次回の審議会で示したい。

<教育総務課>

- ・地域の実情によって、いろんな考え方があるかと思うが、そういったものを計画などに落とし込む内容を考えている。
- ・会長からあったとおり、具体的な話が進んでくると既存の建物で対応できるのか、又は校舎の建替えが必要なのかといった議論も出てくるかと考える。

<石村会長>

- ・前回のあり方検討会で全体的な方向性は出した。今回の審議会では、一定の、ある程度の具体性をもった結論を出していきたいという考えである。

(3) 閉会

以上